

科目名	チーム医療演習	科目名 (英文)	Advanced Seminar of Interdisciplinary
学部	看護学研究科 (M)	学科	看護学専攻
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	稲垣 美紀
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	健康に関係する様々な専門職連携の重要性を理解し、広い視野と高邁な倫理観をもって、保健・医療・介護・福祉に対するニーズに対応し、各専門職と連携した活動を実施できる。																																																																		
到達目標	<p>【知識】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者を中心とした安全で良質な医療・ケアの提供を目指し、チーム医療を推進するために必要な知識や能力を説明できる。</li> <li>2. 職種間の相互理解と連携、協働の重要性について、説明できる。</li> <li>3. 患者中心のケアの提供のための専門職連携に必要なコア・コンピテンシーを説明できる。</li> </ol> <p>【技能/行動】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らのケア実践から職種間の相互理解と連携、協働の課題を分析できる。</li> <li>2. 学びに基づき、自らの課題を解決するための方略について、計画できる。</li> <li>3. 自身の関心のある研究テーマや実践に沿って、患者中心としたケアの提供のために必要となるチーム医療のあり方について考察できる。</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	講義や演習内でこれまでのケア実践を振り返り、学習を深めていきます。また、実践より課題を明確化にします。したがって、今までのケア体験から自らの課題を分析・共有できるよう、学習準備をしておいてください。TeamsなどのICTツールを用いて、主に発表と討議を中心とした授業を行いますので、各回の授業開始までに発表資料を共有し、討議ポイントを把握しておいてください。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1、2回 チーム医療に関する基礎知識</td> <td>チーム医療の歴史、チーム医療を推進するための知識・技能・態度他 (講義)</td> <td>事後課題：第3～6回の発表資料の準備 (4時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第3～6回：職種間連携と協働</td> <td>職種間連携と協働に関する内容について、発表し、討議を行う。</td> <td>事後課題：第7～10回の発表資料の準備 (4時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第7～10回：チーム課題の分析・対応</td> <td>課題の分析と対応について、発表し、討議を行う。</td> <td>事後課題：第11～20回の発表資料の準備 (4時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>第11～20回：ケア実践からの課題の分析と対応</td> <td>自らのケア実践に基づき、課題の分析および対応について、各参加者と共有し、討議を行う。(事例紹介、事例分析、課題解決のための方略の計画を含む)</td> <td>事後課題：第21～30回の発表資料の準備 (4時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>第21～30回：チーム医療のあり方</td> <td>今までの授業での学びを生かし、今後の自身の研究や実践に向けて課題を明確にするため、発表と討議を行う。</td> <td>事後課題：発表資料を追加修正し、レポートとして提出する (4時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第1、2回 チーム医療に関する基礎知識	チーム医療の歴史、チーム医療を推進するための知識・技能・態度他 (講義)	事後課題：第3～6回の発表資料の準備 (4時間)	2	第3～6回：職種間連携と協働	職種間連携と協働に関する内容について、発表し、討議を行う。	事後課題：第7～10回の発表資料の準備 (4時間)	3	第7～10回：チーム課題の分析・対応	課題の分析と対応について、発表し、討議を行う。	事後課題：第11～20回の発表資料の準備 (4時間)	4	第11～20回：ケア実践からの課題の分析と対応	自らのケア実践に基づき、課題の分析および対応について、各参加者と共有し、討議を行う。(事例紹介、事例分析、課題解決のための方略の計画を含む)	事後課題：第21～30回の発表資料の準備 (4時間)	5	第21～30回：チーム医療のあり方	今までの授業での学びを生かし、今後の自身の研究や実践に向けて課題を明確にするため、発表と討議を行う。	事後課題：発表資料を追加修正し、レポートとして提出する (4時間)	6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第1、2回 チーム医療に関する基礎知識	チーム医療の歴史、チーム医療を推進するための知識・技能・態度他 (講義)	事後課題：第3～6回の発表資料の準備 (4時間)																																																																
2	第3～6回：職種間連携と協働	職種間連携と協働に関する内容について、発表し、討議を行う。	事後課題：第7～10回の発表資料の準備 (4時間)																																																																
3	第7～10回：チーム課題の分析・対応	課題の分析と対応について、発表し、討議を行う。	事後課題：第11～20回の発表資料の準備 (4時間)																																																																
4	第11～20回：ケア実践からの課題の分析と対応	自らのケア実践に基づき、課題の分析および対応について、各参加者と共有し、討議を行う。(事例紹介、事例分析、課題解決のための方略の計画を含む)	事後課題：第21～30回の発表資料の準備 (4時間)																																																																
5	第21～30回：チーム医療のあり方	今までの授業での学びを生かし、今後の自身の研究や実践に向けて課題を明確にするため、発表と討議を行う。	事後課題：発表資料を追加修正し、レポートとして提出する (4時間)																																																																
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しいチーム医療 看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門 改訂版</td> <td>田村由美</td> <td>看護の科学社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル</td> <td>篠田道子</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「チーム医療」とは何か 医療とケアに生かす社会学からのアプローチ</td> <td>細田満知子</td> <td>日本看護協会出版会</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しいチーム医療 看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門 改訂版	田村由美	看護の科学社	2	多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル	篠田道子	医学書院	3	「チーム医療」とは何か 医療とケアに生かす社会学からのアプローチ	細田満知子	日本看護協会出版会																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新しいチーム医療 看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門 改訂版	田村由美	看護の科学社																																																																
2	多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル	篠田道子	医学書院																																																																
3	「チーム医療」とは何か 医療とケアに生かす社会学からのアプローチ	細田満知子	日本看護協会出版会																																																																
評価方法 (基準)	授業への参加態度 (発表や討議に対する取り組み) 40% レポート：60%																																																																		
学生へのメッセージ	多職種連携は患者中心の医療を提供するために、必須であると同時に、実践する上で様々な課題があります。授業の参加者が今までのケア実践を主体的に語り合い、相互に学びあい、学びを深めていきたいと思っております。																																																																		
担当者の研究室等	稲垣美紀 (研究室 26)																																																																		
備考																																																																			

科目名	看護学研究	科目名 (英文)	Nursing Research
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	小堀 栄子・森谷 利香

授業概要・目的	看護学における研究の意義を理解し、看護を論理的・客観的・実証的に捉える視点を学ぶ。看護学研究における2つの基本的アプローチである質的研究と量的研究の概要を理解し、それぞれの方法論の持つ特徴、適用、限界について考察する。さらに、研究論文のクリティーク、研究計画の作成について学ぶとともに、看護学研究の倫理を理解したうえで、研究者としての基本的あり方を学ぶ。加えて、看護実践に結びつく看護学研究についても考察する。																																																		
到達目標	<p>(1) 量的研究の背景にある因果推論、および研究の意義と役割、プロセス、方法論、手法、研究倫理などの基本的知識と考え方を学び、科学的・論理的考えに基づいた研究計画書を作成できるようにする。</p> <p>(2) 質的研究の特徴および代表的な研究方法とその理論的前提の概要について理解できる。</p>																																																		
授業方法と留意点	遠隔授業で行う。講義では、テーマに基づく内容を教授するとともに、随時演習を交えて、知識を修得できるように指導する。また、講義後に自己学習課題を提示する。次回の講義までに課題の到達を確認し、学修を深めることができるように工夫する。																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護研究とは</td> <td>看護研究の概要</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>疫学の考え方</td> <td>因果関係とリサーチクエスチョン</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事象の捉え方</td> <td>疫学指標</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>科学的根拠のある研究結果を得るために (1)</td> <td>量的研究のデザイン (1)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文献検索の方法</td> <td>文献検索データベース等の使い方</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>科学的根拠のある研究結果を得るために (2)</td> <td>量的研究のデザイン (2)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>研究結果を歪めるものへの対処</td> <td>偶然誤差、バイアス、交絡</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>統計の考え方</td> <td>推定と検定</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>統計的有意差とサンプルサイズ</td> <td>サンプルサイズの計算とその必要性</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>看護研究計画書-1</td> <td>量的研究における研究計画書作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>質的研究の特徴</td> <td>質的研究の特徴と目的</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>質的研究方法-1</td> <td>質的研究の方法 (1) データの種類と収集方法</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>質的研究方法-2</td> <td>質的研究の方法 (2) データ分析とまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>質的研究方法-3</td> <td>質的研究のクリティーク</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>看護研究計画書-2</td> <td>質的研究における研究計画書作成</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	看護研究とは	看護研究の概要	2	疫学の考え方	因果関係とリサーチクエスチョン	3	事象の捉え方	疫学指標	4	科学的根拠のある研究結果を得るために (1)	量的研究のデザイン (1)	5	文献検索の方法	文献検索データベース等の使い方	6	科学的根拠のある研究結果を得るために (2)	量的研究のデザイン (2)	7	研究結果を歪めるものへの対処	偶然誤差、バイアス、交絡	8	統計の考え方	推定と検定	9	統計的有意差とサンプルサイズ	サンプルサイズの計算とその必要性	10	看護研究計画書-1	量的研究における研究計画書作成	11	質的研究の特徴	質的研究の特徴と目的	12	質的研究方法-1	質的研究の方法 (1) データの種類と収集方法	13	質的研究方法-2	質的研究の方法 (2) データ分析とまとめ	14	質的研究方法-3	質的研究のクリティーク	15	看護研究計画書-2	質的研究における研究計画書作成
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																																	
1	看護研究とは	看護研究の概要																																																	
2	疫学の考え方	因果関係とリサーチクエスチョン																																																	
3	事象の捉え方	疫学指標																																																	
4	科学的根拠のある研究結果を得るために (1)	量的研究のデザイン (1)																																																	
5	文献検索の方法	文献検索データベース等の使い方																																																	
6	科学的根拠のある研究結果を得るために (2)	量的研究のデザイン (2)																																																	
7	研究結果を歪めるものへの対処	偶然誤差、バイアス、交絡																																																	
8	統計の考え方	推定と検定																																																	
9	統計的有意差とサンプルサイズ	サンプルサイズの計算とその必要性																																																	
10	看護研究計画書-1	量的研究における研究計画書作成																																																	
11	質的研究の特徴	質的研究の特徴と目的																																																	
12	質的研究方法-1	質的研究の方法 (1) データの種類と収集方法																																																	
13	質的研究方法-2	質的研究の方法 (2) データ分析とまとめ																																																	
14	質的研究方法-3	質的研究のクリティーク																																																	
15	看護研究計画書-2	質的研究における研究計画書作成																																																	
事前・事後学習課題	事前課題：教科書・参考書を読んでおく 事後学習課題：講義内容の復習、課題																																																		
評価基準	課題で評価する。																																																		
教材等	教科書 ナースのための質的研究入門 ホロウェイ&ウィーラー著 (野口美和子監訳) 医学書院 参考書 看護研究-原理と方法 D.F. ボーリット他 (近藤潤子監訳) 医学書院 参考書 Step Up 質的看護研究 谷津裕子 学研																																																		
備考	前回授業内容の復習を行いながら理解度を確認し、必要に応じてさらに解説する。																																																		

科目名	臨床看護倫理	科目名 (英文)	Clinical Nursing Ethics
配当年次	1年	単位数	1
学期 (開講期)	前期集中	授業担当者	伊藤 恵子

授業概要・目的	臨床・教育・研究のあらゆる場における倫理的問題について、看護の実際例を通して、看護における倫理の必要性と重要性を考察する。加えて、倫理的問題の分析を実践的に学び、看護師としての対応のあり方、役割と機能を考察する。																																																		
到達目標	1)臨床の現場での倫理的な問題とは何か、その中心的存在である患者、家族そしてそこに関わる医療者としての倫理性を理解できる。 2)看護実践上の倫理的ジレンマを理解し、その調整プロセスについて考察できる。 3)看護研究や看護管理上の倫理的課題について理解できる。 4)医療現場における倫理観を醸成するための働きかけを探究できる。																																																		
授業方法と留意点	臨床倫理とは何かについて概観し、倫理原則、看護実践、看護管理、倫理的問題解決について学修する。また、倫理的課題を解決していくプロセスを通して調整を行うための必要な判断能力を養い、看護専門職としての役割や責務倫理調整について探究する。さらに、ディスカッションを通じて今日の看護における倫理的課題について模索する。																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨床倫理とは</td> <td>臨床倫理とは何かについて臨床現場での考え方と概要</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護専門職としての倫理</td> <td>専門職としての要件としての倫理、日本看護協会が示す看護者の倫理綱領について</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>看護実践と倫理</td> <td>第1回2回を踏まえ、「看護実践と倫理的な活動とは」について考える</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>倫理的意思決定プロセス (1)</td> <td>臨床での倫理事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>倫理的意思決定プロセス (2)</td> <td>臨床での倫理事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>倫理的意思決定プロセス (3)</td> <td>臨床での倫理事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>看護研究における倫理</td> <td>看護研究における倫理的配慮とその課題について</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>看護管理における倫理</td> <td>組織を管理していく上で組織風土や文化の礎となる健全な倫理的価値観の醸成について</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	臨床倫理とは	臨床倫理とは何かについて臨床現場での考え方と概要	2	看護専門職としての倫理	専門職としての要件としての倫理、日本看護協会が示す看護者の倫理綱領について	3	看護実践と倫理	第1回2回を踏まえ、「看護実践と倫理的な活動とは」について考える	4	倫理的意思決定プロセス (1)	臨床での倫理事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて	5	倫理的意思決定プロセス (2)	臨床での倫理事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて	6	倫理的意思決定プロセス (3)	臨床での倫理事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて	7	看護研究における倫理	看護研究における倫理的配慮とその課題について	8	看護管理における倫理	組織を管理していく上で組織風土や文化の礎となる健全な倫理的価値観の醸成について	9			10			11			12			13			14			15		
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																																	
1	臨床倫理とは	臨床倫理とは何かについて臨床現場での考え方と概要																																																	
2	看護専門職としての倫理	専門職としての要件としての倫理、日本看護協会が示す看護者の倫理綱領について																																																	
3	看護実践と倫理	第1回2回を踏まえ、「看護実践と倫理的な活動とは」について考える																																																	
4	倫理的意思決定プロセス (1)	臨床での倫理事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて																																																	
5	倫理的意思決定プロセス (2)	臨床での倫理事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて																																																	
6	倫理的意思決定プロセス (3)	臨床での倫理事例・ジレンマに関するディスカッションを通じ調整のプロセスについて																																																	
7	看護研究における倫理	看護研究における倫理的配慮とその課題について																																																	
8	看護管理における倫理	組織を管理していく上で組織風土や文化の礎となる健全な倫理的価値観の醸成について																																																	
9																																																			
10																																																			
11																																																			
12																																																			
13																																																			
14																																																			
15																																																			
事前・事後学習課題	講義内容の予習・復讐																																																		
評価基準	授業への貢献、レポート等を総合的に評価し行う。 授業への参加度：10% 討議の参加度・達成度：40% 課題レポート：50%																																																		
教材等	参考書 看護実践の倫理 第3版 サラT. フライ著 (片田範子他訳) 日本看護協会出版会 参考書 臨床倫理ベーシックレッスン 石垣 靖子、清水 哲郎 日本看護協会出版会 参考書 ケアの向こう側 ダニエルF. チャンプリス著浅野祐子訳 日本看護協会出版会																																																		
備考																																																			

科目名	フィジカルアセスメント特論	科目名 (英文)	Advanced Physical Assessment
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	柳本 広二

授業概要・目的	様々な症状や所見から身体の観察 (分析・分類、フィジカルアセスメント) し、身体の観察とは、また、診断とは、を理解する。 授業担当者は、県立病院やナショナルセンターでの脳外科医長として、頭部、および、その他、様々な疾病の診断を行っており、それらの知識と経験を基に、臨床の場に必要とされる診断に関する知識を身に付けます。
到達目標	(1) 身体診察とは、の意義を理解する。 (2) 具体的な診察手法を学び、様々な所見が理解できる。 (3) 自らの意思をうまく伝えられない患者さんの思いを理解する。
授業方法と留意点	教科書を中心に、以下に示す計画で行いますが、実施内容は前後、重点化、省略等、変更することがあります。 基本は teams、または Moodle を使用する予定ですので、アクセスをして指示にしたがってください。 履修者の皆さん全員に遠隔によるディスカッションを行える環境が整うようであれば、それを実施します。 授業日程は、別途スケジュールを提示します。

回数	授業テーマ	内容・方法 等
1	オリエンテーション	本授業は、遠隔授業形式で行います。 教師と履修者が繋がる、すべての入り口は、teams の本科目名が記載されているところから、そこに、具体的な進め方に関する情報を挙げますので、その指示に従ってください。
2	フィジカルアセスメント総論 身体計測	以下、すべて遠隔授業で行います。授業日程は、ポータル、teams より、別途受けスケジュールを提示します。  総論  体温 脈拍 血圧 呼吸の診かたを学びます。
3	バイタルサイン 体温 脈拍 血圧 呼吸	腋窩での体温測定、脈拍測定、血圧測定 (聴診法) 血圧測定 (触診法)、呼吸測定 バイタルサイン測定の流れ、鼻翼呼吸、下顎呼吸、口すぼめ呼吸、等の異常、を学びます。
4	頭頸部のアセスメント  甲状腺のアセスメント 頭頸部リンパ節のアセスメント  呼吸器系のアセスメント 胸郭と肺のアセスメント  呼吸音のアセスメント	頭頸部の観察法、胸郭と肺の診かた、呼吸音の診かたと意義を学びます。
5	教科書「ゴースト・ボーイ」に関する討議	10歳代で神経難病、寝たきりとなり、10年間以上、植物状態と誤診されていた患者の実体験を基に、ベッドに横たわり続けること、看護者、介護者に自分の意思を伝えられないこと、看護とは、患者に接する作法とは、を理解する。
6	循環器系のアセスメント① 頸部のアセスメント 胸部のアセスメント 末梢循環系のアセスメント	頸部、胸部、末梢循環にある循環器の診かたを学びます。
7	循環器系のアセスメント② 頸部のアセスメント 胸部のアセスメント 末梢循環系のアセスメント	頸部、胸部、末梢循環にある循環器の診かたを学びます (おさらい)。
8	腹部のアセスメント① 腹部全体のアセスメント 腹水のアセスメント 肝臓のアセスメント 脾臓のアセスメント	腹部 (腹水、肝臓、脾臓) の診かたを学びます。
9	腹部のアセスメント② 腹部全体のアセスメント 腹水のアセスメント 肝臓のアセスメント 脾臓のアセスメント 乳房と腋窩のアセスメント  直腸・肛門・生殖器のアセスメント  直腸・肛門のアセスメント 生殖器のアセスメント	腹部 (腹水、肝臓、脾臓) の診かたを学びます (おさらい)。  乳房、腋窩、直腸、肛門、生殖器の診かたを学びます。
10	脳・神経系のアセスメント① 意識のアセスメント	意識の診かたと意義を学びます。
11	脳・神経系のアセスメント② 脳神経のアセスメント 運動機能のアセスメント 反射のアセスメント	脳神経、運動機能、反射の診かたを学びます。
12	脳・神経系のアセスメント③	感覚機能、自律神経系の診かたを学びます。

		感覚機能のアセスメント 自律神経系のアセスメント	
	13	筋・骨格系のアセスメント 関節可動域 (ROM) の測定 徒手筋力検査 (MMT)	関節の診かた、徒手筋力検査の方法を学びます。
	14	教科書、「奇跡の脳」に関する討議	アルツハイマー病の研究を行っていた米国解剖学者の、自らが脳卒中となり、重度の失語症となり、時間をかけて回復していった実体験より、突然、意思の伝達ができなくなった状況を想像し、そのような症状を持つ様々な患者さんに接する際の心がけを討議する。共に学ぶ仲間の読後感を参考として自らの知識を深める。
	15	フィジカルアセスメント特論のまとめ	様々な所見に関する理解と知識を確認します。
事前・事後学習課題	教科書内の担当するテーマを事前にまとめて、当日に、遠隔授業にて、発表・討議していただきます。		
評価基準	出席、受講態度および各課題に関する理解の深さと説明力などで総合的に評価します。		
教材等	看護がみえる vol. 3 フィジカルアセスメント 医療情報科学研究所 編、メディックメディア ゴースト・ボーイ (日本語) マーティン・ビストリウス (著), ミーガン・ロイド・デイヴィス (著), 長澤 あかね (翻訳) ? 2015/11/18 PHP 研究所 奇跡の脳 (日本語) ジル・ボルト テイラー (著), Jill Bolte Taylor (原著), 竹内 薫 (翻訳) 2009/2 新潮社		
備考			

科目名	医療経済特論	科目名 (英文)	Advanced Healthcare Economics
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	田井 義人

授業概要・目的

- ・経済・経営管理の諸理論を理解し、保健・医療・福祉における経済・経営的思考を修得するとともに、政策構築を考察できる力を養う。
- ・政令指定都市の高医療機能病院に15年間勤務した経験から医療現場での課題に対する実践的演習を行う。
- ・SDG-s3「すべての人に健康と福祉を」該当

到達目標

「認定看護管理者セカンドレベル、サードレベルカリキュラム基準」に準拠し以下の視点からの考察を行う。

①保健医療福祉と経済論の視点：医療経済の構造や医療システムについて理解を深め、医療福祉における経済的問題や日本における社会保障と医療経済の関わりからの考察。

②ヘルスケアサービスの経営管理・経済性の視点：看護職が提供する看護サービスを効果的かつ効率的な側面から検討するための経営管理の視点や市場性・適正配置などの経済原理の視点からの考察。看護業務に関連する周辺業務である人事・物品・情報・時間等の管理における経済性からの考察。

③看護経営の今後のあり方の視点：訪問看護ステーション・助産院の経営管理の視点からのマネジメントや医療や福祉分野等での看護師業務の多様な就業形態の考察。

授業方法と留意点

ICT ツールを活用して下記内容を実施する。

[講義方法]

原則として、授業計画に基づき授業を行う。授業に使用するテキストは「医療の経済学」「見える化”医療経済学入門”」を使用し、授業計画に沿って事前に学生にレジメの作成を求める。レジメの報告と追加資料による議論を行う。議論の際に、質問と授業への感想や要望及び意見を聴取し、授業の内容と進め方に反映させる。医療に関わる実践例を用いたビデオ教材等を活用して学生が理解できるように工夫する。さらに、興味のある内容については、質問票を設け、次の授業で議論するなど学生の学修を助ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等
2	病院ランキングは役立つか -情報の非対称性-	1: 広告規制、病院ランキング本 2: 情報の非対称性、情報生産、シグナリング 3: 情報公開、病院ランキングの有効性 4: 日本の第三者評価と情報生産
3	医療サービスと自由競争	1: 多くの規制がなぜ必要なのか 2: 情報の非対称性、レモン市場、市場の失敗 3: 規制の目的と効果 4: 市場の失敗が政府の失敗か
4	患者はかかりつけ医を持つべきか-エージェント問題-	1: 家庭医制度、高齢者担当医制度 2: エージェント問題、契約の失敗 3: 受診決定のちがひ、G P 契約の手法 4: 家庭医制度の是非
5	病床規制はなぜ維持されたのか-供給者誘発需要仮説-	1: 病床規制 2: 供給者誘発需要仮説 3: 供給者誘発需要は実際に存在するのか 4: 競争促進と医療費抑制のジレンマ
6	社会的入院は解消できるか-サービスの代替補完関係-	1: 社会的入院、介護保険制度 2: 超過需要、割当、代替材 3: 社会的入院の費用、介護保険の節減効果 4: 補完財を代替財として利用
7	公的医療保険はなぜ必要か-需要の不確実性と逆選択-	1: 公的医療保険への強制加入 2: 保険の機能、リスク選択、プーリング 均 衡 3: プーリング 均 衡 から 分離 均 衡 へ の 移 行 4: 社会保険方式のメリットとデメリット
8	診療報酬改訂は伝家の宝刀か-保険償還の仕組みと経済的誘因-	1: 医療機関の経営と公的医療保険制度 2: 支払い方式の変更、独占的競争 3: 公定価格の水準および支払い単位の変更 4: 公定価格の水準と支払い単位の変更
9	混合診療解禁のメリット・デメリット-医療制度の効率性と公平性	1: 混合診療禁止のルール 2: 医療資源の配分と公平性、モラルハザード 2: 医療資源の配分と公平性、モラルハザード 3: 民間保険の利用と健康格差 4: 効率性と公平性のバランス
10	「医師不足」は定員増加で解決できるか-ニーズアプローチの限界-	1: 医師不足、医療崩壊 2: 2つのアプローチ (ニーズとシーズ) 3: 2つのアプローチの比較 4: ニーズアプローチの限界
11	「終末期医療」は無駄なのか-日本人の死生観-	1: 終末期をめぐる論争 2: 燻製論争 3: 日本で RED HERRING 仮説は支持されるか 4: 各国で異なる死生観
12	視界ゼロを脱するか DPC/PDPS-今後の政策・運営方針への示唆	1: “見える化”できない DPC 2: CMI は利用可能か 3: 在院日数短縮と病床利用率のバランス 4: 解消すべき2つの課題 5: ACG は日本になじむのか
13	“医療の見える化”の現状と課題	1: 求められる“医療の質の向上と効率化” 2: P4P の先事例 3: 草の根から努めた“病院可視化ネットワーク” 4: P4P による行動変容はあるのか 5: 病院・医師は変えるのか 6: 技術革新の検証 7: 質の向上と効率化の同時達成 8: P4P の前に P4R
14	どこまで公的医療保険で面倒みるか	1: 透明性が増した保険収載プロセス 2: 懸案の未収載品の取扱 3: “デビルの川”と“死の谷” 4: 基準が曖昧な“昇格”手続き 5: 自由放任でいいのか
15	地域包括ケアは連携か“範囲の経済”か	1: アメリカのデフォルトにみる先事例 2: リハビリにみる医療・介護の連携 3: 大腿骨頸部骨折治療にみる実証研究 4: 主たる知見 5: 経営改善したいのか訪問看護 ST・助産院 6: “口から食べたい”を支える歯科医師との連携

事前・事後学習課題

事前に作成するレジメ及びレジメによる発表内容、議論や講義内で作成を求めるレポート、質問に対する回答の結果を基に、総合的に評価する。

評価基準

定期試験なし。ICT ツールを活用しての参加による対面コミュニケーションから講義での回答内容 50 パーセント、レポート 50 パーセントで総合評価する。

教材等

- ・「医療の経済学 第2版」 河口 洋行著 日本評論社
- ・“見える化”医療経済学入門 川渕 孝一 医歯薬出版株式会社
- ・人にやさしい医療の経済学 森 宏一郎 信山社

備考

科目名	地域医療防災演習	科目名 (英文)	Advanced Studies of Public Health Management of
配当年次	1年	単位数	1
学期 (開講期)	通年集中	授業担当者	池内 淳子・榊 愛・高田 洋介

授業概要・目的	被災地において被災者の健康維持支援を行う看護師・助産師の役割について学ぶ。はじめに自然災害の発生原因について学習し、拠点施設の室内空間構成や被害事例について、また、都市における拠点施設の空間分布等について理解を深める。次に、阪神・淡路大震災や東日本大震災における事例を基に、災害看護および被災者・支援者のメンタルケアの重要性を理解する。地域での避難所運営訓練等に参画することで、地域防災に寄与する看護師・助産師としての知識・技能を身につける。 (1) 地震・津波など自然災害や拠点施設となる病院の被害事例について学ぶ。北河内医療圏の構成（人口など）について理解する。 (2) 生活空間の寸法（椅子や机など）について、また、都市における公共建物の空間分布特性と暮らしの関係について学ぶ。 (3) 阪神・淡路大震災や東日本大震災、また、その他の自然災害時における被災者の健康管理について学ぶ。 (4) 避難所運営訓練や被災者の健康管理を目的とした研修に参画することで、地域医療に携わる医療従事者の役割を学ぶ。																																																
到達目標	1) 自然災害の発生原因について、拠点施設の室内空間構成や被害事例について説明できる。 2) 都市における拠点施設の空間分布等について理解する。 3) 阪神・淡路大震災や東日本大震災における事例を基に、災害看護および被災者・支援者のメンタルケアについて説明できる。 4) 地域での避難所運営訓練等に参画することで、地域防災に寄与する看護師・助産師としての知識・技能を身につける。																																																
授業方法と留意点	第1回～第9回の講義では、講義と演習を組み合わせる授業を行う。緊急事態宣言発出中は大学構内への立ち入りが禁止されるため、講義・演習をオンライン式授業とする。オンライン授業では、①オンデマンド型（あらかじめ準備した授業教材（動画やpdf資料）を視聴し、授業後に課題を提出する方式）と、②ライブ型（土曜午後の授業時間内に授業配信を行う。授業後の課題は①と同様）を組み合わせる。大学構内への立ち入りが解除となった以降も、「三密」を避けるためにオンライン授業を主とする。第10回～第14回では、地域における学外（学内）活動として避難所運営訓練や健康管理を目的とした研修の運営に携わり、医療従事者の役割を学ぶ。活動後は振り返りのためレポート作成を行う。第15回目は、総括として災害後の被災者の健康管理支援について、自分の活動をまとめ、意見を述べる。																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自然災害を知る</td> <td>地震・津波・洪水・土砂崩れ・台風・竜巻等自然災害について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>病院被害と病院防災</td> <td>拠点施設となる病院の建築的成り立ちと構造、被害事例について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>室内空間の成り立ちと人間工学に基づく寸法</td> <td>椅子や机・ベッドの高さや大きさ等の寸法について学ぶ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>都市における拠点施設の空間分布を知るためのワーク</td> <td>都市における駅や公共建物の配置を学び、空間分布特性を知る</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>拠点施設の空間分布と暮らし</td> <td>都市の空間分布特性と人の暮らしの関係</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>阪神・淡路大震災における地域医療</td> <td>阪神・淡路大震災時における被災者の健康管理</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>東日本大震災における地域医療</td> <td>東日本大震災時における被災者の健康管理</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>その他の自然災害における地域医療</td> <td>その他の自然災害における被災者の健康管理</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>北河内地域の医療圏について</td> <td>学外活動に伴う事前調査（町の空間構成・居住人口・医療圏）</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修1</td> <td>学外活動1（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修2</td> <td>学外活動2（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修3</td> <td>学外活動3（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修4</td> <td>学外活動4（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修5</td> <td>学外活動5（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括</td> <td>災害後の被災者の健康管理支援—地域復興へ—</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	自然災害を知る	地震・津波・洪水・土砂崩れ・台風・竜巻等自然災害について学ぶ	2	病院被害と病院防災	拠点施設となる病院の建築的成り立ちと構造、被害事例について学ぶ	3	室内空間の成り立ちと人間工学に基づく寸法	椅子や机・ベッドの高さや大きさ等の寸法について学ぶ	4	都市における拠点施設の空間分布を知るためのワーク	都市における駅や公共建物の配置を学び、空間分布特性を知る	5	拠点施設の空間分布と暮らし	都市の空間分布特性と人の暮らしの関係	6	阪神・淡路大震災における地域医療	阪神・淡路大震災時における被災者の健康管理	7	東日本大震災における地域医療	東日本大震災時における被災者の健康管理	8	その他の自然災害における地域医療	その他の自然災害における被災者の健康管理	9	北河内地域の医療圏について	学外活動に伴う事前調査（町の空間構成・居住人口・医療圏）	10	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修1	学外活動1（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）	11	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修2	学外活動2（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）	12	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修3	学外活動3（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）	13	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修4	学外活動4（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）	14	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修5	学外活動5（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）	15	総括	災害後の被災者の健康管理支援—地域復興へ—
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																															
1	自然災害を知る	地震・津波・洪水・土砂崩れ・台風・竜巻等自然災害について学ぶ																																															
2	病院被害と病院防災	拠点施設となる病院の建築的成り立ちと構造、被害事例について学ぶ																																															
3	室内空間の成り立ちと人間工学に基づく寸法	椅子や机・ベッドの高さや大きさ等の寸法について学ぶ																																															
4	都市における拠点施設の空間分布を知るためのワーク	都市における駅や公共建物の配置を学び、空間分布特性を知る																																															
5	拠点施設の空間分布と暮らし	都市の空間分布特性と人の暮らしの関係																																															
6	阪神・淡路大震災における地域医療	阪神・淡路大震災時における被災者の健康管理																																															
7	東日本大震災における地域医療	東日本大震災時における被災者の健康管理																																															
8	その他の自然災害における地域医療	その他の自然災害における被災者の健康管理																																															
9	北河内地域の医療圏について	学外活動に伴う事前調査（町の空間構成・居住人口・医療圏）																																															
10	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修1	学外活動1（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）																																															
11	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修2	学外活動2（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）																																															
12	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修3	学外活動3（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）																																															
13	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修4	学外活動4（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）																																															
14	地域の避難所運営訓練と被災者の健康管理を目的とした研修5	学外活動5（避難所運営訓練の実施、被災者の健康管理を目的とした研修）																																															
15	総括	災害後の被災者の健康管理支援—地域復興へ—																																															
事前・事後学習課題	<p>【事前学習】</p> <p>1～9回目：これまでの日本における自然災害に対し、災害医療・健康福祉・被災者ケアに関して興味のある資料・書籍等を読み込む。事前配布された資料を読み込み、講義中の質問や議論等の準備を行う。</p> <p>10～14回目：地域活動のリハーサル等にも積極的に参加し、地域活動実施の効果を向上させるための準備を行う。</p> <p>15回目：これまでの講義内容を踏まえ、災害後の被災者の健康管理支援に関してプレゼン資料をまとめる。</p> <p>【事後学習】</p> <p>1～9回目：講義内容を復習し、次回の講義での質問や議論等の準備を行う。</p> <p>講義内容と自分の専門分野との関連について、10～14回目の地域活動での学び、および15回目のプレゼンとしてまとめられるように整理する。</p> <p>10～14回目：地域活動で得た知見をメモとして電子データ等にまとめておく。</p> <p>15回目：プレゼンを通じて得た意見、また、他受講生の意見を踏まえ、自分の専門分野の学びに活用できるよう、知見をまとめる。</p>																																																
評価基準	第1回～第9回の講義中の質問に対する回答やレポート等を30%で評価する。また、学外活動時の分担業務に対する対応の積極性および学外活動後のレポートを50%で評価する。さらに、15回目のプレゼンテーションを20%で評価する。																																																
教材等	【参考資料】「災害に強い病院であるために」 福田幾夫・池内淳子・鶴飼卓（株）医薬ジャーナル社																																																
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方については、1回目授業時に説明する。</li> <li>10～14回の学外活動の日程は不定期であるが、授業や病院研修の妨げにならない日程に参加する（主に、土曜日や日曜日）。</li> <li>本講義は、看護師・助産師を目指す学生にとって、災害時の医療従事者の役割を多角的に、実践的に学ぶ機会として位置付けている。</li> <li>本講義は、榊 愛（摂南大学理工学部環境デザイン学科）および高田洋介（岡山大学）で分担して実施する。</li> </ul>																																																

科目名	看護教育特論	科目名 (英文)	Advanced Nursing Education
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	佐久間 夕美子

授業概要・目的	看護教育の課題と解決方法を理解し、看護教育の教授活動を展開するために必要な基本的知識を修得する。
到達目標	看護教育に深く関連する教育学や成人教育理論について理解し、看護教育についての自己の考えを述べることができる。 看護教育課程の編成や授業設計、教育方法、評価方法について理解する。
授業方法と留意点	授業では、看護教育に関連する基礎的理解が必要な事項について、適宜研究論文や書籍を紹介し予習を促す。 それぞれのテーマに関連する文献を概説した後、学生間で ICT ツールを活用したプレゼンテーションと討議を行い、理解を深める。 看護教員や看護職者として教育的関わりの基礎となる知識を獲得し、看護教育のあり方や課題、その解決方法について自己の考えを明確にし、検討する。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	オリエンテーションおよび教育観について	授業の進め方および教育観について概説する
	2	教育について	教育観と理論について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	3	成人教育の基礎知識①	アンドラゴジーとペタゴラジーについて、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	4	成人教育の基礎知識②	成人の学習ニーズ、学習者のレディネス、動機付けと成人教育者の役割について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	5	看護教育課程の基礎知識①	看護教育における倫理的基盤、学習者への倫理的配慮について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	6	看護教育課程の基礎知識②	看護教育課程の構造について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	7	看護教育課程の基礎知識③	看護教育課程の編成に関連する法律、大学におけるアドミッションポリシーについて、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	8	看護教育課程の基礎知識④	看護教育課程の編成の実際について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	9	看護教育における授業設計①	教育の技法とその実際 ※研究領域担当教員またはその他の授業を聴講し、授業設計や教育技法を考察する
	10	看護教育における授業設計②	授業を設計するための基礎的知識について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	11	看護教育における授業設計③	授業や演習における授業設計の方法について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	12	看護教育における授業設計④	臨地実習における授業設計の方法について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	13	看護教育評価①	教育評価について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	14	看護教育評価②	授業、演習および臨地実習における評価について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	15	教育者の資質向上のための取り組み まとめ	ファカルティ・ディベロップメントについて、プレゼンテーションとディスカッションを行う。 看護教育について要点を整理する。

事前・事後学習課題	<b>【事前課題】</b> ・授業の下調べ及び学生同士のディスカッションをしておくこと(1時間) ・事前課題について関連書籍、研究論文を参考にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備を行うこと(2時間) <b>【事後課題】</b> ・授業内でのディスカッション、プレゼンテーションの際に得た助言等をふまえ、レポートを作成すること(2時間)
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	学生間の討議状況と、レポートの内容から評価する。 レポートは、授業の進行に合わせて適宜テーマを提示する。 授業での討議状況：20% プレゼンテーション：30% レポート：50%
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

教材等	教科書 看護教育学 (第6版) 杉森みど里, 舟島なをみ 医学書院 参考書 よくわかる教育原理 汐見稔幸 他 ミネルヴァ書房 参考書 成人期の学習—理論と実践— シャラン・B. メリアム 他 鳳書房 参考書 看護学教育における授業展開 舟島なをみ 医学書院
-----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

備考	
----	--



科目名	看護現任教育特論	科目名 (英文)	Advanced Incumbent Nursing
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	後期	授業担当者	佐久間 夕美子

授業概要・目的	看護職者の特性を理解して、その学習ニーズと看護継続教育についての現任教育のあり方について理解する。現任教育の現状と課題を明らかにした上で、成人学習者である看護職者を対象とした院内教育の計画立案、教育方法、評価方法について検討する。 (1) 看護職者を成人学習者としてとらえ、各ライフステージにおける学習ニーズおよび現任教育の現状と課題について、事例や文献などを用いて検討し、看護継続教育のあり方について考察を行う。 (2) 新人看護師から中堅期以降の看護師を対象とした現任教育における教育的支援の現状と課題について、事例や文献などを用いて検討し、現任教育のあり方について考察を行う。
到達目標	看護専門職者の現任教育を生涯学習体系の中に位置付け、新人看護職員研修、キャリア支援も含む実践と成長を支える教育的支援などの現任教育の現状と課題を明らかにした上で、教育的視座から現任教育をとらえる。成人学習者である看護職者を対象に、看護師自身の教育ニーズについてとらえながら、成人教育に必要な基礎的理論をふまえ、院内教育の計画立案、教育方法、評価方法について検討する。
授業方法と留意点	ICT ツールを活用した遠隔授業も取り入れ、授業では現任教育に関連する基礎的理解が必要な事項について、適宜研究論文や書籍を紹介し予習を促す。それぞれのテーマに関連する文献を概説した後、学生間で討議し理解を深める。自身の経験や既習の理論等を活用して、看護実践場面での教育とその課題について、具体的かつ今後の教育・研究・実践活動につなげられるよう、予習しておくことが求められる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	オリエンテーション	授業の進め方のオリエンテーションを行うとともに、現任教育について概説する。
	2	生涯学習の考え方	生涯学習に関する理論について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	3	キャリア・ディベロップメント	Scheinのキャリア・アンカー理論ほかについて、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	4	大人の学習を支える諸理論の理解	成人教育の諸理論について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	5	看護師の現任教育	ベナー看護論と現任教育について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	6	現任教育の現状と課題(1)	看護基礎教育から現任教育に至る際の課題について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	7	現任教育の現状と課題(2)	新人看護師に対する教育的課題について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	8	現任教育の現状と課題(3)	新人看護師の教育的支援のあり方について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	9	現任教育の現状と課題(4)	ライフステージと専門職としての現任教育について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	10	現任教育の現状と課題(5)	潜在看護師の支援と復職研修について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	11	現任教育の現状と課題(6)	中堅期以降の課題 について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	12	現任教育の現状と課題(7)	現任教育への組織的取り組みについて、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	13	看護職者の学習ニーズと現任教育(1)	新人期の学習ニーズと現任教育に関する研究論文について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	14	看護職者の学習ニーズと現任教育(2)	中堅期以降の学習ニーズと現任教育に関する研究論文について、プレゼンテーションとディスカッションを行う。
	15	まとめ	看護師自身の教育ニーズをとらえながら、成人教育に必要な基礎的理論をふまえ、院内教育の計画立案、教育方法、評価方法などについての要点を整理する。

事前・事後学習課題	<p>【事前課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の下調べ及び学生同士のディスカッションをしておくこと(1時間)</li> <li>事前課題について関連書籍、研究論文を参考にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備を行うこと(2時間)</li> </ul> <p>【事後課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業内でのディスカッション、プレゼンテーションの際に得た助言等をふまえ、レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価基準	<p>学生間の討議状況と、レポートの内容から評価する。 レポートは、授業の進行に合わせて適宜テーマを提示する。 授業での討議状況：20% プレゼンテーション：30% レポート：50% ※原則上記を予定しているが、感染状況により評価方法を変更することもある。</p>
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教材等	<p>参考書 ベナー・ナースを育てる バトリシア・ベナー 医学書院 参考書 看護師のキャリア論 勝原裕美子 ライフサポート社 参考書 キャリア・アンカー エドガー・H. シャイン 白桃書房 参考書 看護現場で使える教育学の理論と技法 中井俊樹 メディカ出版</p>
備考	

科目名	地域・療養支援看護学特論	科目名(英文)	Advanced Community Health Nursing /Clinical Nurisng
配当年次	1年	単位数	2
学期(開講期)	前期	授業担当者	田中 結華, 稲垣 美紀, 小堀 栄子, 竹下 裕子, 富永 真己, 松田 千登勢, 森谷 利香

授業概要・目的	地域・病院・施設などさまざまな場で生活する高齢者、健康者、療養者とその家族を理解し、支援するための概念や理論を踏まえ、実践と研究への適応を検討し、多様な課題を持つ人々への看護活動に関する研究への関心と探究心を養う。
到達目標	1) 看護の対象としての個人、家族、集団、地域を支援する看護活動に関する理論を論文を通して検討し、研究への関心、探究心を養う。 2) さまざまな疾病や闘病過程に生じる多様な課題を持つ人々への看護活動に関する理論を論文を通して検討し、研究への関心、探究心を養う。 3) 高齢者・家族の健康の維持・増進、高齢者特有の疾病への看護活動に関する理論を論文を通して検討し、研究への関心、探究心を養う。
授業方法と留意点	Microsoft Teams で授業に関する指示を行う。原則として、授業計画に基づく授業を展開する。授業はゼミ形式で行い、各テーマに沿って学生が主体的に選択した文献をもとに発表し、討議を行う。討議では、実践と研究への適用に向けて学生各自が思考して発言を行い、議論を活性化させる。実際の事例を理論に基づきながら整理し、研究的視点から解釈・吟味して自己の考えをまとめ、問題意識を明確化するとともに、最新の研究成果を紹介するなどとする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	オリエンテーション	授業のオリエンテーションを行う。 興味のあるテーマに沿って、議論し、授業の進め方を検討する。また、発表と討議のあり方について理解する
	2	地域看護の対象と看護活動を理解する	個人、家族、集団、地位を対象とする看護活動と看護職の役割について理解を深める。
	3	集団、地域を対象とする看護活動に活用する理論と方法論	集団、地域を対象とする看護活動を理解するための理論であるヘルスプロモーション、プリシード・プロシードモデルなどの活用について理解を深める。
	4	個人・家族を対象とする看護の理論と方法	家族システム理論など家族ケアに関する理論の理解を深める
	5	個人・家族・集団を対象とする看護の理論と実際	個人・家族・集団を対象とする看護活動に関する理論について討議し、理論の実践および研究への適応を探索する
	6	さまざまな疾病や闘病過程に生じる多様な課題を持つ人々を理解する	さまざまな疾病や闘病過程に生じる多様な課題を持つ人々を理解するための理論について、文献学習および討議を通して、理解を深める
	7	さまざまな疾病や闘病過程に生じる多様な課題を持つ人々を支援するための理論 (1)	さまざまな疾病や闘病過程に生じる多様な課題を持つ人々への支援について、文献学習および討議を通して、理解を深める
	8	さまざまな疾病や闘病過程に生じる多様な課題を持つ人々を支援するための理論 (2)	さまざまな疾病や闘病過程に生じる多様な課題を持つ人々への支援について、文献学習および討議を通して、理解を深める
	9	さまざまな疾病や闘病過程に生じる多様な課題を持つ人々を支援について理論と実際の検討	さまざまな疾病や闘病過程に生じる多様な課題を持つ人々を対象とする看護活動について討議し、理論の実践および研究への適応を探索する
	10	高齢者とその家族を理解する	高齢者とその家族を理解するための理論について、文献学習および討議を通して、理解を深める
	11	高齢者とその家族を支援するための理論 (1)	高齢者・家族への支援について、文献学習および討議を通して、理解を深める
	12	高齢者とその家族を支援するための理論 (2)	高齢者・家族への支援について、文献学習および討議を通して、理解を深める
	13	高齢者とその家族を支援する理論と実際の検討	高齢者とその家族を対象とする看護活動について討議し、理論の実践および研究への適応を探索する
	14	自分の関心のあるテーマについて理論と実際の検討 (1)	今までの対象者理解を踏まえ、理論および援助方法について整理し、研究への適応を探索する。
	15	自分の関心のあるテーマについて理論と実際の検討 (2)	自分の関心のあるテーマについて、今までの講義を通して活用できる理論について検討をする。
事前・事後学習課題	学習効果を高めるために、各自事前に具体的なテーマ、視点をもち、事前に文献、資料を学習しておくこと。また、授業中に討議した内容について、事後に整理し、課題を明らかにしておくこと。		
評価基準	参加態度、プレゼンテーション、討議内容、レポートなどを総合して評価する。		
教材等	授業で適宜提示する。		
備考			

科目名	地域・療養支援看護学演習	科目名(英文)	Seminar of Community Health Nursing/Clinical Nursing
配当年次	1年	単位数	2
学期(開講期)	後期	授業担当者	田中 結華, 稲垣 美紀, 小堀 栄子, 竹下 裕子, 富永 真己, 松田 千登勢, 森谷 利香, 山本 智津子

授業概要・目的	地域で療養生活を送る人々、家族が経験する健康問題、健康課題を文献によって明らかにし、その支援方法および評価を行う。関心のあるテーマを焦点付、疑問を明確にしてフィールドワーク・実習を行い、療養する人々とその家族におきる現象を把握する。これらもとに、対象者が抱える困難や問題を、社会情勢なども含めた背景を、関連する様々な概念や理論を用いて深く思索し、研究課題を明確にする。																																																		
到達目標	(1) 各学生の関心領域に焦点を当てて文献検索を行ない、ゼミ形式での文献検討、プレゼンテーション、討議を通して研究疑問を明確化できる。 (2) 研究疑問にそったフィールドワーク・実習を学生が計画・立案、実施できる。 (3) 文献検討、フィールドワーク・実習から得た成果から得た見解をまとめ、プレゼンテーション、討議を通して研究課題を明確にできる。																																																		
授業方法と留意点	フィールドワーク・実習は、協力機関の指導の下、1日4コマ程度をシラバスの計画に沿って行う。今年度のフィールドワークは、リモートで行う各活動等を含むものとする。																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第1回-第7回 研究疑問の明確化</td> <td>自らの関心領域における文献検討を広く行い、プレゼンテーション、討議を通して研究疑問を明確にする。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>第8回-第22回 フィールドワーク、実習</td> <td>疑問や問題としていることを深く掘り下げ研究課題へと発展させるために、自らの関心領域においてフィールドワークを設定し、実習を行う。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>第23回-第30回 研究課題の明確化</td> <td>文献検討やフィールドワーク、実習を実施した成果および自らの見解を発表し、研究課題について明確にする。</td> </tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	第1回-第7回 研究疑問の明確化	自らの関心領域における文献検討を広く行い、プレゼンテーション、討議を通して研究疑問を明確にする。	2	第8回-第22回 フィールドワーク、実習	疑問や問題としていることを深く掘り下げ研究課題へと発展させるために、自らの関心領域においてフィールドワークを設定し、実習を行う。	3	第23回-第30回 研究課題の明確化	文献検討やフィールドワーク、実習を実施した成果および自らの見解を発表し、研究課題について明確にする。	4			5			6			7			8			9			10			11			12			13			14			15		
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																																	
1	第1回-第7回 研究疑問の明確化	自らの関心領域における文献検討を広く行い、プレゼンテーション、討議を通して研究疑問を明確にする。																																																	
2	第8回-第22回 フィールドワーク、実習	疑問や問題としていることを深く掘り下げ研究課題へと発展させるために、自らの関心領域においてフィールドワークを設定し、実習を行う。																																																	
3	第23回-第30回 研究課題の明確化	文献検討やフィールドワーク、実習を実施した成果および自らの見解を発表し、研究課題について明確にする。																																																	
4																																																			
5																																																			
6																																																			
7																																																			
8																																																			
9																																																			
10																																																			
11																																																			
12																																																			
13																																																			
14																																																			
15																																																			
事前・事後学習課題	事前に関連文献、資料を準備しておくこと。 事後は指示された課題を行うこと。																																																		
評価基準	平常点(出席状況、作成資料、討議内容など)60%、フィールドワーク・実習状況を40%の割合で評価する。																																																		
教材等	授業にて適宜紹介する。																																																		
備考																																																			

科目名	地域・療養支援看護学援助特論	科目名(英文)	Advanced Intervention of Community Health
配当年次	2年	単位数	2
学期(開講期)	前期	授業担当者	田中 結華, 稲垣 美紀, 竹下 裕子, 富永 真己, 松田 千登勢, 森谷 利香

授業概要・目的	療養生活をおくる人々とその家族への看護など、地域医療における個人、家族、集団、地域を対象とし、人々のQOL向上にむけた看護援助に関する問題を取り上げる。それらの問題の背景と現状、課題を文献および実践事例等を通して把握し、ケアの質向上にむけた看護活動のあり方を探究する。また、看護実践における倫理的課題の検討および看護職の役割について考察する。		
到達目標	(1) 療養生活をおくる人々と家族、集団、地域における、看護援助に関する問題、その背景、現状および課題を明らかにすることができる。 (2) ケアの質の向上に向けた看護活動のあり方について述べるができる。 (3) 看護実践における倫理的課題について討議し、看護職の役割を考察することができる。		
授業方法と留意点	Microsoft Teams上で、授業方法を指示する。原則として、授業計画に基づく授業を展開する。文献検討、プレゼンテーション、討議のすべてにおいて主体的に学修する。既習の理論やエビデンスについて文献検討を行う。文献検討に使用する文献は、最新かつ質の高い者を選び、また事例検討は学生の経験に基づくものとし、その理解を助ける。		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	地域・療養生活支援看護における援助	授業オリエンテーションおよび地域・療養生活支援看護における既習の理論やエビデンスを活用し、文献および事例検討のために必要な視点について検討する。
	2	高齢者、療養生活を送る人々への看護援助(1)	問題となるテーマを取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討、事例検討を行う。
	3	高齢者、療養生活を送る人々への看護援助(2)	問題となるテーマを取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討、事例検討を行う。
	4	高齢者、療養生活を送る人々への看護援助(3)	問題となるテーマを取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討、事例検討を行う。
	5	高齢者、療養生活を送る人々への看護援助(4)	問題となるテーマを取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討、事例検討を行う。
	6	高齢者、療養生活を送る人々への看護援助(5)	問題となるテーマを取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討、事例検討を行う。
	7	高齢者、療養生活を送る人々への看護援助(6)	問題となるテーマを取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討、事例検討を行う。
	8	高齢者、療養生活を送る人々への看護援助(7)	問題となるテーマを取り上げ、看護実践に関する倫理的課題について、文献検討、事例検討を行う。
	9	高齢者、療養生活を送る人々への看護援助(8)	問題となるテーマを取り上げ、看護実践に関する倫理的課題について、文献検討、事例検討を行う。
	10	地域で療養する人々への看護援助(1)	地域で療養する人々への看護援助に関する問題をテーマとして取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討、事例検討を行う。
	11	地域で療養する人々への看護援助(2)	地域で療養する人々への看護援助に関する問題をテーマとして取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討、事例検討を行う。
	12	地域で療養する人々への看護援助(3)	地域で療養する人々への看護援助に関する問題をテーマとして取り上げ、理論、支援方法とその評価に関する文献検討、事例検討を行う。
	13	地域で療養する人々への看護援助(4)	問題となるテーマを取り上げ、看護実践に関する倫理的課題について、文献検討、事例検討を行う。
	14	まとめ	療養生活を送る人々・家族への看護援助について、支援の現状の問題点、今後への展望についてまとめ、学生各自がプレゼンテーションし、討議を行う。
	15	まとめ	地域医療における人々・家族、集団への看護援助について、支援の現状の問題点、今後への展望についてまとめ、学生各自がプレゼンテーションし、討議を行う。
事前・事後学習課題	学習効果を高めるために、各自事前に具体的なテーマ、視点をもち、事前に文献、資料を学習しておくこと。また、授業中に討議した内容について、事後に整理し、課題を明らかにしておくこと。		
評価基準	参加態度、プレゼンテーション、討議内容、レポートなどを総合して評価する。		
教材等	授業で適宜提示する。		
備考			

科目名	健康発達支援看護学特論	科目名 (英文)	Advanced Women's Health Nursing/Child Health Nursing
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	泉川 孝子, 池田 友美, 鎌田 佳奈美, 眞野 祥子

授業概要・目的	周産期を含む、女性のライフサイクル全般にわたる専門的な看護援助、女性の健康増進と健康に関する問題および疑問を解決するために、Evidence based Medicine に基づいた知見を学修する。さらに成長発達理論、家族関係理論、セルフケア理論など、子どもと家族に関する諸理論や概念を学修し、子どもの文化的背景、社会状況や生活および養育環境との関係の中で子どもと家族の理解を深める。																																																	
到達目標	<p>(1) ライフサイクル各期にある女性とその家族の健康問題について理解を深め、健康教育、支援のあり方について学ぶ。</p> <p>(2) 子どもと家族を取り巻く社会状況や文化的背景について学修する。また、認知発達理論など、子どもの成長発達の諸理論や概念の理解を深め、看護への適用を考察する。</p> <p>(3) 家族関係理論など、家族の理解と支援を探究するための諸理論や概念について理解を深め、看護への適用を考察する。</p> <p>(4) セルフケア理論、ストレス対処理論など、諸理論や概念について理解を深め、看護への適用を考察する。</p>																																																	
授業方法と留意点	原則として、授業計画に基づき ICT を利用した遠隔授業を行う。授業計画に沿って学生にレジュメ作成、プレゼンテーションを求める。テーマ内容についてできるだけ深く学修できるよう、内容について議論を行う。学生が理論と実践を結び付けられるように、自身が経験した事例を用いて、既習の理論を適用して検討する。新たな疑問点が生じた場合には、次回の授業の課題とし理解を深める。																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>子どもと家族を取り巻く社会・文化</td> <td>子どもと家族の発達に影響を及ぼす社会環境・文化的背景</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>子どもと家族の権利と看護職の役割</td> <td>子どもと家族の権利に関する歴史の変遷と権利擁護、看護職の役割</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>発達理論 (1)</td> <td>ピアジェ認知発達理論と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>発達理論 (2)</td> <td>フロイトの自我発達理論と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>発達理論 (3)</td> <td>エリクソン心理社会的発達理論 (乳児期～思春期) と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>家族関係理論 (1)</td> <td>アタッチメント理論と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>家族関係理論 (2)</td> <td>家族システム論、家族力動論と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>家族関係理論 (3)</td> <td>家族関係理論を用いた事例検討と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>家族介入のための理論 (1)</td> <td>ストレスコーピング理論と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>家族介入のための理論 (2)</td> <td>セルフケア理論と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>家族介入のための理論 (3)</td> <td>認知行動理論と看護への適用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ウイメンズヘルスの現状と問題</td> <td>国内外の女性の健康問題と倫理的問題の現状と問題点について分析</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ライフステージ各期の健康問題と特性 (1)</td> <td>ライフステージ各期の発達とその個性について</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ライフステージ各期の健康問題と特性 (2)</td> <td>ライフステージ各期の女性とその家族(パートナー) について</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ライフステージ各期の健康問題と援助</td> <td>ライフステージ各期の健康問題を分析する</td> </tr> </tbody> </table>		回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	子どもと家族を取り巻く社会・文化	子どもと家族の発達に影響を及ぼす社会環境・文化的背景	2	子どもと家族の権利と看護職の役割	子どもと家族の権利に関する歴史の変遷と権利擁護、看護職の役割	3	発達理論 (1)	ピアジェ認知発達理論と看護への適用	4	発達理論 (2)	フロイトの自我発達理論と看護への適用	5	発達理論 (3)	エリクソン心理社会的発達理論 (乳児期～思春期) と看護への適用	6	家族関係理論 (1)	アタッチメント理論と看護への適用	7	家族関係理論 (2)	家族システム論、家族力動論と看護への適用	8	家族関係理論 (3)	家族関係理論を用いた事例検討と看護への適用	9	家族介入のための理論 (1)	ストレスコーピング理論と看護への適用	10	家族介入のための理論 (2)	セルフケア理論と看護への適用	11	家族介入のための理論 (3)	認知行動理論と看護への適用	12	ウイメンズヘルスの現状と問題	国内外の女性の健康問題と倫理的問題の現状と問題点について分析	13	ライフステージ各期の健康問題と特性 (1)	ライフステージ各期の発達とその個性について	14	ライフステージ各期の健康問題と特性 (2)	ライフステージ各期の女性とその家族(パートナー) について	15	ライフステージ各期の健康問題と援助	ライフステージ各期の健康問題を分析する
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																																
1	子どもと家族を取り巻く社会・文化	子どもと家族の発達に影響を及ぼす社会環境・文化的背景																																																
2	子どもと家族の権利と看護職の役割	子どもと家族の権利に関する歴史の変遷と権利擁護、看護職の役割																																																
3	発達理論 (1)	ピアジェ認知発達理論と看護への適用																																																
4	発達理論 (2)	フロイトの自我発達理論と看護への適用																																																
5	発達理論 (3)	エリクソン心理社会的発達理論 (乳児期～思春期) と看護への適用																																																
6	家族関係理論 (1)	アタッチメント理論と看護への適用																																																
7	家族関係理論 (2)	家族システム論、家族力動論と看護への適用																																																
8	家族関係理論 (3)	家族関係理論を用いた事例検討と看護への適用																																																
9	家族介入のための理論 (1)	ストレスコーピング理論と看護への適用																																																
10	家族介入のための理論 (2)	セルフケア理論と看護への適用																																																
11	家族介入のための理論 (3)	認知行動理論と看護への適用																																																
12	ウイメンズヘルスの現状と問題	国内外の女性の健康問題と倫理的問題の現状と問題点について分析																																																
13	ライフステージ各期の健康問題と特性 (1)	ライフステージ各期の発達とその個性について																																																
14	ライフステージ各期の健康問題と特性 (2)	ライフステージ各期の女性とその家族(パートナー) について																																																
15	ライフステージ各期の健康問題と援助	ライフステージ各期の健康問題を分析する																																																
事前・事後学習課題	各テーマに沿って、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる準備を行う																																																	
評価基準	作成したレジュメおよびプレゼンテーション内容、授業での討議内容 (50%)、課題レポート (50%) など、総合的に評価する。																																																	
教材等	授業の中で適宜紹介する																																																	
備考																																																		

科目名	健康発達支援看護学援助特論	科目名 (英文)	Advanced Intervention of Women's Health Nursing
配当年次	2年	単位数	2
学期 (開講期)	前期	授業担当者	泉川 孝子, 池田 友美, 鎌田 佳奈美, 眞野 祥子

授業概要・目的	女性の健康に関する看護実践方法および子どもと家族の発達促進、QOL 向上にむけた看護実践方法について、関連する科目で学んだ理論や概念を基盤とし、文献と事例展開を通して検討する。さらにこれらの看護実践に伴う、対象のアドボカシーへの課題や倫理的問題に対する看護職者の役割と活動についても考察する。																																																	
到達目標	<p>(1) 周産期を含む女性の健康に関する看護実践方法について、関連する科目で学んだ理論や概念を基盤とし、文献検討と事例展開を通して検討する。</p> <p>(2) 既習の理論やエビデンスを用いて、発達障害の子どもと家族に対する理解を深め、看護方法論を検討する。さらに、子どもと家族を取り巻く医療、保健、福祉、教育に関連する多職種との円滑な連携のあり方も含め、包括的なケアモデルを検討する。</p> <p>(3) 既習の理論やエビデンスを用いて、虐待を受けた子どもや不適切な養育の家族に対する理解を深め、看護方法論を検討する。さらに、子どもと家族を取り巻く医療、保健、福祉、教育に関連する多職種との円滑な連携のあり方も含め、包括的なケアモデルを検討する。</p> <p>(3) 既習の理論やエビデンスを用いて、重症心身障害の子どもと家族に対する理解を深め、看護方法論を検討する。さらに、子どもと家族を取り巻く医療、保健、福祉、教育に関連する多職種との円滑な連携のあり方も含め、包括的なケアモデルを検討する。</p> <p>(4) 看護援助に伴う対象者のアドボカシーへの課題や倫理的問題に対する看護職者の役割と活動についても考察する。</p>																																																	
授業方法と留意点	原則として、授業計画に基づきオムニバス形式で ICT を活用した遠隔授業を行う。授業テーマに沿って学生にレジメを作成、プレゼンテーションを求める。テーマ内容についてできるだけ深く学修できるように、内容について議論を行う。議論の内容について、新たな疑問が生じた場合には、次回の授業の課題とし理解を深める。																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>女性の健康と看護実践</td> <td>女性の健康と看護実践の方法について</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護実践上の倫理概念の明確化 (1)</td> <td>看護・助産実践における女性の人権とアドボカシー</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>看護実践上の倫理概念の明確化 (2)</td> <td>看護・助産実践における周産期女性と家族の医療過誤とアドボカシー</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>看護実践上の倫理概念の明確化 (3)</td> <td>看護・助産実践における胎児の生命倫理とアドボカシー</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人間発達とは</td> <td>子どもの発達について</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>重症心身障害児の概念</td> <td>重症心身障害児について</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>重症心身障害児の権利</td> <td>重症心身障害児の理解と権利について</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>重症心身障害児を育てる家族の心理とその支援</td> <td>重症心身障害児とその家族に対する看護と関係機関との連携 重症心身障害児とその家族に対する看護の課題と展望</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>発達障害の特性理解</td> <td>自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害に関する基本的知識</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>発達障害児を育てる家族の心理</td> <td>家族のストレス、養育態度、障害受容</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>発達障害児とその家族のアセスメントとその支援</td> <td>発達障害児とその家族に対する看護と関係機関との連携 発達障害児とその家族に対する看護の課題と展望</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>子ども虐待と現状</td> <td>子ども虐待の歴史と現状、法的定義、看護職の役割 (事例検討を含む)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>養育上支援を必要とする家族のアセスメント</td> <td>子ども虐待のリスク要因、親子関係、養育態度、子どもや親の言動 養育場支援を必要とする事例のアセスメントの実際</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>養育上支援を必要とする家族への支援 (1)</td> <td>不適切な養育状況にある子どもへの治療的ケア 不適切な養育の家族へのケア</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>養育上支援を必要とする家族への支援 (2)</td> <td>虐待予防・防止に向けた課題とケアシステムの検討</td> </tr> </tbody> </table>		回数	授業テーマ	内容・方法 等	1	女性の健康と看護実践	女性の健康と看護実践の方法について	2	看護実践上の倫理概念の明確化 (1)	看護・助産実践における女性の人権とアドボカシー	3	看護実践上の倫理概念の明確化 (2)	看護・助産実践における周産期女性と家族の医療過誤とアドボカシー	4	看護実践上の倫理概念の明確化 (3)	看護・助産実践における胎児の生命倫理とアドボカシー	5	人間発達とは	子どもの発達について	6	重症心身障害児の概念	重症心身障害児について	7	重症心身障害児の権利	重症心身障害児の理解と権利について	8	重症心身障害児を育てる家族の心理とその支援	重症心身障害児とその家族に対する看護と関係機関との連携 重症心身障害児とその家族に対する看護の課題と展望	9	発達障害の特性理解	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害に関する基本的知識	10	発達障害児を育てる家族の心理	家族のストレス、養育態度、障害受容	11	発達障害児とその家族のアセスメントとその支援	発達障害児とその家族に対する看護と関係機関との連携 発達障害児とその家族に対する看護の課題と展望	12	子ども虐待と現状	子ども虐待の歴史と現状、法的定義、看護職の役割 (事例検討を含む)	13	養育上支援を必要とする家族のアセスメント	子ども虐待のリスク要因、親子関係、養育態度、子どもや親の言動 養育場支援を必要とする事例のアセスメントの実際	14	養育上支援を必要とする家族への支援 (1)	不適切な養育状況にある子どもへの治療的ケア 不適切な養育の家族へのケア	15	養育上支援を必要とする家族への支援 (2)	虐待予防・防止に向けた課題とケアシステムの検討
回数	授業テーマ	内容・方法 等																																																
1	女性の健康と看護実践	女性の健康と看護実践の方法について																																																
2	看護実践上の倫理概念の明確化 (1)	看護・助産実践における女性の人権とアドボカシー																																																
3	看護実践上の倫理概念の明確化 (2)	看護・助産実践における周産期女性と家族の医療過誤とアドボカシー																																																
4	看護実践上の倫理概念の明確化 (3)	看護・助産実践における胎児の生命倫理とアドボカシー																																																
5	人間発達とは	子どもの発達について																																																
6	重症心身障害児の概念	重症心身障害児について																																																
7	重症心身障害児の権利	重症心身障害児の理解と権利について																																																
8	重症心身障害児を育てる家族の心理とその支援	重症心身障害児とその家族に対する看護と関係機関との連携 重症心身障害児とその家族に対する看護の課題と展望																																																
9	発達障害の特性理解	自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害、学習障害に関する基本的知識																																																
10	発達障害児を育てる家族の心理	家族のストレス、養育態度、障害受容																																																
11	発達障害児とその家族のアセスメントとその支援	発達障害児とその家族に対する看護と関係機関との連携 発達障害児とその家族に対する看護の課題と展望																																																
12	子ども虐待と現状	子ども虐待の歴史と現状、法的定義、看護職の役割 (事例検討を含む)																																																
13	養育上支援を必要とする家族のアセスメント	子ども虐待のリスク要因、親子関係、養育態度、子どもや親の言動 養育場支援を必要とする事例のアセスメントの実際																																																
14	養育上支援を必要とする家族への支援 (1)	不適切な養育状況にある子どもへの治療的ケア 不適切な養育の家族へのケア																																																
15	養育上支援を必要とする家族への支援 (2)	虐待予防・防止に向けた課題とケアシステムの検討																																																
事前・事後学習課題	テーマに関連する論文や資料を検討し、プレゼンテーション準備を行う																																																	
評価基準	作成したレジメおよびプレゼンテーション内容、授業での討議内容、課題レポートなど、総合的に評価する。 レジメ・プレゼンテーション内容・討議内容 50% レポート 50%																																																	
教材等	授業の中で適宜紹介する																																																	
備考																																																		

科目名	看護教育方法演習	科目名 (英文)	Nursing Education Method Seminar
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)		授業担当者	佐久間 夕美子

授業 (指導) 概要・目的	看護教育制度を支える法および関連法規をもとに、看護教育制度の特徴を理解し、看護教育課程構築および授業設計の基礎を学ぶ。
到達目標	1) 看護教育過程の歴史的変遷について、学校教育制度と看護師養成教育の二つの側面から理解できる。 2) 質の高い看護を提供し得る人材育成のための教育実践の方法論として、講義および演習、臨地実習指導のあり方を考え、授業設計 (授業実施方法および評価方法の計画書の作成)、授業の実施、評価を行う。 3) 看護教育の現状と課題について自己の考えを述べるができる。
授業方法と留意点	ICT ツールを活用した遠隔授業も取り入れ、講義または演習を行う。教員はファシリテーターとして受講生同士の討論に参加し、一人ひとりが理解を深められるように促す。 看護教育制度を支える方法、看護教育過程の編成など基礎的理解が必要な事項については、授業までに各自予習を行う。 研究領域担当教員および授業展開する科目担当教員、看護教育方法演習担当教員の指導を受け、看護学部の授業や演習、または各領域実習での授業設計、授業の実施、評価を行う。
授業 (指導) 計画	第1回：オリエンテーション 授業について概説する 第2回：看護教育制度を支える法と関連法規・看護教育過程の変遷について 第3回：成人学習者ニーズと教育者の関わりについて 第4回：教育課程の編成1 教育理念と教育目標、ディプロマポリシーの明文化について 第5回：教育課程の編成2 教育課程のデザインと科目目標の設定について 第6回：授業設計 (授業指導案の作成ポイント) について  第7～28回：研究領域にて授業設計、授業の実施、評価を行う ①研究領域担当教員と相談し、受け持つ科目と単元を決定する ②研究領域担当教員および授業担当教員から指導を受け、大学のディプロマポリシーおよび科目の学習目標などから受け持つ単元の授業目標を設定する ③研究領域担当教員および授業担当教員の指導を受け、授業または各領域実習での授業実施方法および評価計画書を立案する *①～③について、必要時、看護教育方法演習担当教員からアドバイスをもらう ④研究領域担当教員および授業担当教員の指導を受け、授業資料を作成する ⑤授業担当教員のもと授業や演習、実習指導を実施する ⑥授業実施後に自己の授業の評価を行う ⑦授業評価を行った資料をもとに、研究領域担当教員および授業担当教員と一連の過程についてディスカッションする *授業担当教員とは、本科目の履修生が授業などを実施する科目の担当教員とする。  第29回：授業評価を行った資料をもとに、授業設計、授業実施、評価についてディスカッションしながら整理する 第30回：自己の教育についての学びをまとめる
事前・事後学習課題	【事前課題】 ・授業の下調べ及び学生同士のディスカッションをしておくこと (1時間) ・事前課題について関連書籍、研究論文を参考にレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備を行うこと (2時間) 【事後課題】 ・授業内でのディスカッション、プレゼンテーション、授業展開の際に得た助言等をふまえ、レポートを作成すること (2時間)
評価基準	授業設計、授業実施、評価などの課題提出物や学生間の討議状況で評価する。 討議の参加状況：20% 授業設計等の作成物やレポート：80% ※原則上記を予定しているが、感染状況により変更することもある。
教材等	教科書 看護学教育における授業展開 舟島なをみ 医学書院 参考書 看護教育学 (第6版) 杉森みどり, 舟島なをみ 医学書院 参考書 看護教育における授業設計 佐藤みつ子 医学書院 参考書 目黒悟・永井睦子：授業デザインワークブック メヂカルフレンド社
備考	

科目名	健康発達支援看護学演習	科目名 (英文)	Seminar of Women's Health Nursing/Child Health Nursing
配当年次	1年	単位数	2
学期 (開講期)	後期	授業担当者	泉川 孝子, 池田 友美, 鎌田 佳奈美, 佐久間 夕美子, 眞野 祥子

授業 (指導) 概要・目的	女性や子どもとその家族の健康保持・増進及び疾病予防、健康回復にむけた実践における課題、専門職のケアの質向上にむけた教育に関する課題など、文献検索やクリティーク、プレゼンテーションや討議を通して疑問を明確にする。さらに、フィールドワーク・実習の実践活動を行い、疑問や問題としていることを研究課題へと発展できる能力を養う。
到達目標	1. 子どもと家族のケアおよび女性に関する自らの研究疑問をプレゼンテーションできる 2. 研究疑問を明らかにするためにフィールドワークを計画できる 3. 研究疑問から明確な研究課題へと焦点化できる 4. 研究課題をわかりやすく説明できる
授業方法と留意点	原則として、授業計画に基づき対面および遠隔で行う。文献検討、フィールドワーク・実習、プレゼンテーション、討議の全てにおいて、深く学修するよう、内容について議論を行う。また、学修の各段階において、きめ細やかな指導を行い、知識や内容を整理し課題を明確にできるよう指導する。フィールドワークは枚方市保健所など『健康医療都市ひらかたコンソーシアム』に参加している機関あるいは教育研究にかかる連携協定を締結している4病院などを中心とした臨地での実践を行い、実習は星ヶ丘医療センターの病棟および外来で指導の下、実践を行う。いずれも平日、1日4コマ程度をシラバスの計画に沿って実施する。
授業 (指導) 計画	研究疑問について オリエンテーション・研究疑問についてプレゼンテーション 第2回 研究疑問について文献検討 (1) 研究疑問に対する文献検討 第3回 研究疑問について文献検討 (2) 研究疑問に対する文献検討 第4回 研究疑問について文献検討 (3) 研究疑問に対する文献検討 第5回 フィールドワーク・実習計画立案 フィールドワーク・実習の目的、方法、内容 第6~12回 フィールドワーク・実習 研究疑問を焦点化するためのフィールドワーク・実習 第13回 プレゼンテーション (1) 研究疑問の焦点化に向けたプレゼンテーション、討論 第14回 プレゼンテーション (2) 研究疑問の焦点化に向けたプレゼンテーション、討論 第15回 研究疑問から研究課題へ 研究課題に関連する文献検討 第16~22回 課題を明確化するための文献検討 研究課題に関する国内外の文献検討 第23回 フィールドワーク計画立案 フィールドワーク・実習の目的、方法、内容 第24~28回 課題を明確化するためのフィールドワーク・実習 課題を明確化するためのフィールドワーク・実習 第29回 プレゼンテーション 研究課題についてのプレゼンテーション・討論 第30回 まとめ 研究課題に対する研究デザイン、方法、内容を検討
事前・事後学習課題	文献検討内容のレジメおよびプレゼンテーション準備を行う
評価基準	作成したレジメおよびプレゼンテーション内容、授業での討議内容 (30%)、レポート課題 (70%) を総合的に評価する。
教材等	授業の中で適宜紹介する
備考	



科目名	特別研究	科目名 (英文)	Research Dissertation or Advanced Research
配当年次	2年	単位数	8
学期 (開講期)		授業担当者	鎌田 佳奈美, 池田 友美, 泉川 孝子, 稲垣 美紀, 小堀 栄子, 田中 結華, 富永 真己, 松田 千登勢, 眞野 祥子, 森谷 利香

授業 (指導) 概要・目的	専攻する領域の演習で明らかになった研究疑問に基づき、研究課題の明確化、研究目的の設定、研究計画立案、研究倫理審査、データ収集、分析・解釈、論文作成、発表が行えるよう指導し、研究を実施する基礎的な能力を育成する。
到達目標	専攻する領域の演習で明らかになった研究疑問に基づき、研究課題の明確化、研究目的の設定、研究計画立案、研究倫理審査、データ収集、分析・解釈、論文作成、発表が行え、研究を実施する基礎的な能力を身につける。
授業方法と留意点	講義、プレゼンテーションと討議、調査・実験などの方法を用いて対面および非対面授業を行う。学生の研究領域と研究課題に基づき、指導教員から指導を受けるとともに、学生間による発表・討議などにより学修を深め、かつ学びを共有できるよう授業をし、さらに、学生が自主的に学修を進められるように指導する。
授業 (指導) 計画	担当教員により異なるが、研究者としての倫理、研究計画、調査・実験、論文作成、発表等の指導を受ける。  池田 友美 病気や障がいのある子どもと家族への生活支援に関する研究 泉川 孝子 リプロダクティブヘルスケア、セクシュアリティ、母子ケアに関する研究 鎌田 佳奈美 子ども虐待予防、早期発見および子育て支援に関する研究 小堀 栄子 日本在住外国人のヘルシー・マイグランド効果と健康リスクに関する研究 田中 結華 慢性の病いとともに生きる人々への看護、オストメイトの看護に関する研究 富永 真己 労働者の離職とメンタルヘルスに関する研究 松田 千登勢 閉じこもり高齢者に対する健康増進活動に関する研究 森谷 利香 慢性病、特に神経難病患者の看護に関する研究 稲垣 美紀 急性期にある患者の看護、循環器疾患患者の看護に関する研究 眞野 祥子 母子関係、家族関係、母親のメンタルヘルスに関する研究
事前・事後学習課題	文献検討、研究計画、データ分析、論文等のプレゼンテーション準備
評価基準	修士論文の提出および研究発表の公聴会を行い、研究科委員会にて審議する。
教材等	担当教員により適宜紹介する
備考	